

本校生の天草での活動

本校では、探究的な学習の時間の活動として、生徒たちが様々なテーマを設定し、探究的活動を行っています。また、そうした活動は授業だけにとどまりません。

8月に本校のC I (Creative Innovation) 同好会が、自分たちの得意なことや好きなことをいかして、天草市のまちづくりに一役買おうと、天草で地域の方々に向け、これまで探究を進めてきた成果を発表しました。

本校の学校運営協議会の委員もやっていたいっている武蔵野美術大学の若杉浩一先生が天草市の本渡港周辺的环境整備のプロジェクトに関わっておられ、その若杉先生の誘いがあり、こうした形での天草市と本校生との関わりが始まった経緯があります。

C I 同好会の生徒諸君は、『のさりの書』【天草旅に来てくれた人が、誰かの思い出に触れ、人との繋がりを感じ、絵葉書で繋がる世界で一冊の観光本】構想や、天草旅がより思い出に残るようお土産を NFT 化 (Non Fungible Token [唯一無二]) したり、テクノロジーを利用する構想等を発表してくれました。どれも大変意欲的な内容で、会場も盛り上がっていました。地元の方々から、感想や新たな提案等もいただきました。

地域の魅力を再発見しそれを発信していく、また、そうした活動を通じて地域へ人を呼び込み地域を活性化していく、といった地域課題に取り組む活動は、ユニークな着想や ICT を駆使する必要があります。それはまさに探究的活動の総合的な実践と言えます。最適な解はなかなか見つかりませんが、深い学びの体験が得られる取組です。このような活動の中で、生徒達は自分たちが育った地域を知り、誇りを持ち、自分たちの価値や素晴らしさを再発見してくれると思います。

今回の本校生の取組が、天草のまちづくりに少しでもお役手に立てば、ということをお願いしております。

このような貴重な機会をご提供いただいた関係者のみなさま、本当にありがとうございました。



発表の様子